



# 南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は 進んで学ぶ子

R2.6.12

No.10

思いやりのある子

かっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



## 【校長より】

「失敗して注意されるのが嫌だから全力でやらない子がいるんですけど、そういう子はなかなか伸びませんね。人の注意を『ありがとう』って聞ける素直さが大切です。」

河野中学校の学校だより(6月9日号)に、箕面自由学園高等学校(大阪府)チアリーダー部監督の野田一江さんの言葉が掲載されていました。(同校はチアリーディングの甲子園とよばれるジャパンカップで9連覇、30回以上の全国制覇を果たしています。野田監督は、チアリーディング未経験者の音楽教師だったそうです。)

「失敗を恐れない勇気」と「人の注意を受け入れることができる素直さ」、自分のレベルを上げるためには、どちらもとても大切なことだと思います。

また、映画・テレビドラマ『チア☆ダン』で有名になった福井商業高校チアリーダー部「JETS」の顧問である、五十嵐裕子さんは、「人は変えられる」「なりたい自分になれる」と部員に語りかけてやる気に火を付け、まったく踊れなかった生徒が1ヶ月の猛特訓で見違えるように上手くなったそうです。そして、『今の自分がすべてだと考えず、夢や目標を持って「なりたい自分」に向かい続けてください。』ともおっしゃっています。

さて、先日、あるクラスの授業で、例文に合わせて表現活動をする場面があったそうです。初めて習ったため、事前に練習したのですが、いざ発表という場面になると、子どもたちがあまりにも消極的、自信なさそうな様子で授業に参加せず、盛り上がりませんでした。もちろん、新型コロナウイルス感染症予防対策で、これまでのように活発に交流したり、大声を出したりするというわけにもいきませんから、ある程度これまでの授業の様子と変わるのには仕方ありませんが、それを差し引いても残念な様子だったようです。すぐに担任が注意をしたようですが、その注意を素直に受け入れることができたでしょうか？ 次の授業では、変われるでしょうか？ 今後どのように変わっていくか、期待しながら見守っていきたいと思います。

## 【読書が脳にもたらす4つの効果】

### 1 6分の読書で60%減！ストレス解消効果・・・イギリスの大学の研究から

イギリスのサセックス大学の研究によると、たった6分間の読書でストレスレベルが約60%まで低下し、そのストレス解消効果は「音楽・散歩・お茶・ゲーム」などより はるかに大きなものだったそうです。ただし、ストレス解消に効果的とされる本のジャンルは、「難しすぎず、興味を持てる本」、「好きなジャンルの本」、「小説などの感情移入ができる本」が良いそうです。

### 2 親子で楽しむ。「音読・読み聞かせ」で語彙力(言葉をどれだけ知っているかという能力)UP

「たくさんの本を読むこと」が子どもの語彙力をUPさせ、言葉の発達を手助けしてくれるこ

とが分かっています。2歳児を対象にしたアメリカの研究によると、絵本などを読み聞かせるコツは、例えば、「海の中には恐ろしいサメがいました。・・・サメっていうのは、するどい牙のある、大きくて強い魚のことね。」というように、「本の中の単語をわかりやすく別の言葉に言い換えながら読む」と、より効果的なのだそうです。

### 3 「読書好きは成績が高い」・・・小学生・中学生に学力アップの効果も

小・中学生を対象とした文部科学省の調査によると、「読書好き」な児童生徒は、「どの学科でも成績が高い」結果が出ています。読書が学力アップに「間接的に影響している」のだそうです。読書で身に付けた「文章を理解する力」が成績アップにつながっているのかもしれない。

### 4 「共感能力」「コミュニケーション能力」がUP・・・小説がおすすめ

アメリカのカーネギーメロン大学の研究者が行った研究によると、100時間の読書の後で脳をスキャンすると、幼い子どもたちの「読書力」と「コミュニケーション能力」がアップしていることが分かりました。また、読書中の脳をMRIでスキャンすると、「実際に体が動いていなくても運動を司る脳の部分が活性化する」など、本の中の人物の経験を脳が「追体験」していることが分かるのだそうです。本の中の登場人物に深く感情移入し、まるで自分が主人公と同じ経験をしているかのように手に汗を握ったり、怒ったり、喜んだり・・・様々なキャラクターの思考を追い、「理解できないと思ってたけど、こんな思いで行動していたんだな」と感じ入ったり・・・ こうした深い集中をともなう読書は、周りの人々への共感力を高めてくれます。特にフィクション(作り話)の小説がおすすめです。

本校では、来週から本の貸し出しを再開します。昨年度、本校の読書活動が認められ、『朝の読書大賞』を受賞し、日本一になることができました。また、副賞としていただいた30万円で、本を約200冊購入し、図書室に「朝の読書大賞受賞記念文庫」のコーナーを設けることができました。今後、活発な読書活動の様子が見られるようになってうれしいです。



## 【古代文字の魅力】

今から10年ほど前、教職を離れ、古代文字(甲骨文字など)に関わる仕事をしていました。そして、その形のユニークさと成り立ちのおもしろさにすっかりハマってしまいました。興味を持てば好きになり、進んで勉強するという良い例かもしれません。



「人」 昔の有名なドラマ『金八先生』で、「人という字は、人と人が支え合って・・・」というセリフがありました。古代文字を見ると、支え合うことなく、しっかり一人で立っています。支えがなくても、強い存在なのかもしれません。

「尿」 人から何か点が点々として出ています。これはひよっとして・・・ 確か小学生の頃、こんな感じの絵をふざけて描いたことがあったような記憶がよみがえります。3000年以上前の中国人も同じようなことをしていました。

「乳」 母親が赤ちゃんをしっかり抱きしめ、赤ちゃんは口を開けて一生懸命に乳を飲んでる様子です。この字から、母と子の強い絆を感じます。父親になった時に、ちょっぴり孤独を味わう時間でした。

図書室に、古代文字を説明した本もありますので、良かったら読んでください。